

建設技術センターだより

新江の桜並木

約4.6kmにわたって

500本のソメイヨシノが

咲き誇る桜並木。

旧安田町の町制20周年を

記念して植えられたもので、

4月には、『新江さくらまつり』が

花よりだんごまき』が

開催されます。

(詳しくは3ページ)

市町村紹介コーナー

阿賀野市

[下越エリア]

CONTENTS

|特集| 02 市町村紹介コーナー 阿賀野市 04 発注者支援事業紹介 05 けんせつセミナー2019のご案内
05 クリエイティブセミナーのご案内 |センターINDEX| 06 建設材料試験の豆知識 07 雪のことば・雪のころ 08 編集後記

08 新潟の地酒巡り

越後桜酒造 | もっと身近に、良質のお酒を気軽に飲んでほしい



阿賀野市

Agano

阿賀野市のプロフィール(平成31年1月末現在)

面積 / 192.74km²
人口 / 42,499人
世帯数 / 14,426世帯
<http://www.city.agano.niigata.jp/>



元気で 明るく 活力のある 魅力的なまち あがの

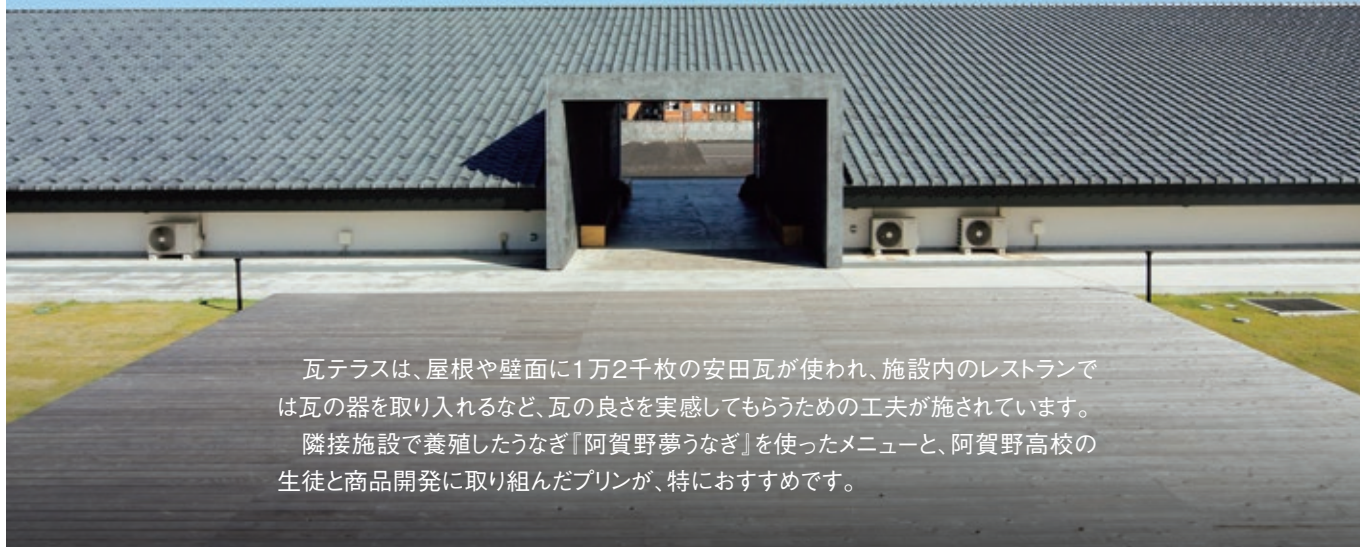
新潟市から車で30分。新潟平野のほぼ中央に位置する阿賀野市は、南側には大河阿賀野川が流れ、東側には標高1,000m級の山々が連なる五頭連峰を背に、美しい田園風景が広がります。

遠くシベリアから約5,000羽もの白鳥が飛来するラムサール条約登録湿地「瓢湖」、新潟県観光地満足度調査で“総合満足度No.1”を4回受賞した国民保養温泉地「五頭温泉郷」があります。また、特産品として、新潟県酪農発祥の地で作られたヤスダヨーグルトや江戸時代からの歴史を持つ安田瓦などが有名です。



何度でも訪れたい場所「瓦テラス」

～阿賀野市の魅力あふれる新たな観光拠点～



瓦テラスは、屋根や壁面に1万2千枚の安田瓦が使われ、施設内のレストランでは瓦の器を取り入れるなど、瓦の良さを実感してもらうための工夫が施されています。

隣接施設で養殖したうなぎ『阿賀野夢うなぎ』を使ったメニューと、阿賀野高校の生徒と商品開発に取り組んだプリンが、特におすすめです。



阿賀野市保田7373番地1

☎0250-47-8530

■営業時間

レストラン／11:00～15:00

カフェ／10:00～17:00

ショップ／10:00～17:00

休館日：毎週木曜日



TOPICS

阿賀野市桜まつり [4月1日(月)～14日(日)]

4月7日(日)
開催

新江さくらまつり～花よりだんご・まき～

■時間 9:30～16:00

■会場 新江用水路桜並木

◎新江桜コンサート

◎芸能発表(民謡、よさこい、ダンス ほか)

◎阿賀野市特産品の販売

◎うんめもん市

◎防災フェア(阿賀野市消防署)

◎花よりだんご・まき(15:00ごろ)

※安田浄化センター前の新江用水路上下流部両岸約800mで交通規制を行います。誘導員の指示に従ってください。(7:00～18:00)



桜まつりスタンプラリー

各会場で桜まつりのスタンプをもらおうと、特典があります。――

新江さくらまつり会場▶先着200人に粗品を進呈

瓢湖桜まつり会場▶先着100人にお菓子を進呈

五頭山麓うらの森▶先着100人に粗品を進呈

また、3会場でスタンプを集めると、

抽選で20人に阿賀野市特産品をプレゼントします。

■抽選会場 新江さくらまつり会場、瓢湖桜まつり会場

瓢湖桜まつり～瓢湖湖畔ポンボリ設置～

■時間 9:30～15:00

■会場 瓢湖湖畔

◎さくら湯サービス、水原銘菓・コンニャクおでんなどの販売

◎ごずっちょ最中(もなか)など阿賀野市特産品の販売



夜間ライトアップも あります

■期間 4月1日(月)～14日(日)

■時間 18:30～21:00

■会場 新江用水路桜並木、
瓢湖湖畔、天朝山公園

お問い合わせ 阿賀野市商工観光課 ☎0250-62-2510

発注者支援事業紹介



駒林川流域治水一級(防災安全)築堤・樋門工工事

工事概要

阿賀野市(旧水原町)市街を貫流した後、新潟市北区にて一級河川新井郷川に合流している駒林川において、平成10年8月の洪水により水原市街地が浸水したことを契機に、親水性や河川環境に配慮した整備が進められてきました。

当工事は、駒林川に樋門を新設すると共に堤防の整備を行うものです。

工事内容



工事名 駒林川流域治水一級(防災安全)築堤・樋門工工事

工期 平成29年8月～平成30年5月

発注者 新潟県新発田地域振興局
地域整備部 治水課

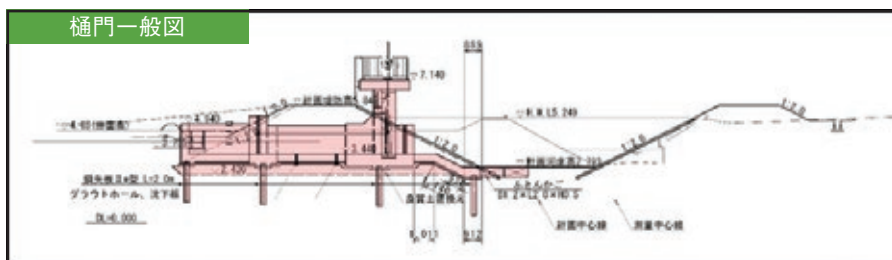
工事内容 樋門工 B1.0m×H1.0m 1式
築堤工 L=26.1m

施工位置図



阿賀野市山口 地内

樋門一般図



樋門とは、堤内地の雨水や水田の水などが川や水路を流れ、より大きな川に合流する場合、合流する川の水位が洪水などで高くなった時に、その水が堤内地側に逆流しないように設ける施設です。



河床埋戻前確認



樋門出来形確認



管理技術者から一言

管理技術者 小川 秀則



契約図書における発注者の責務を適切に遂行するために、工事施工状況の確認及び把握などを行い、品質確保に繋がりました。また、事前に適切な打合せや協議を通して工事の進捗にあわせた施工管理を計画的に行い、円滑な施工に繋がりました。今後も、品質確保と技術力の向上に努め、地域に貢献していきたいと思っております。

けんせつセミナー 2019のご案内



県、市町村職員、建設事業関係者を対象に、多様化する建設課題に適切に対応できる視野と民間技術の発達に対応できる技術的能力の向上などを目的として「けんせつセミナー」を実施しています。

2019年度 けんせつセミナー2019 開催予定



No	研修名	受講対象者			CPD 認定
		県	市町村	民間	
1	初任者技術研修		○		○
2	土質・地質調査I(基礎編)	○	○		○
3	土質・地質調査II(応用編)	○	○		○
4	雪氷技術	○	○	○	○
5	土木施工管理	○	○		○
6	道路設計	○	○	○	○
7	斜面对策技術	○	○	○	○
8	橋梁I(下部工の設計・施工編)	○	○	○	○
9	橋梁II(上部工の設計・施工編)	○	○	○	○
10	道路舗装の調査・設計・施工(上越会場)	○	○	○	○
11	道路舗装の調査・設計・施工(新潟会場)				
12	河川設計と多自然川づくり	○	○	○	○
13	土留め工法の計画・施工	○	○	○	○
14	コンクリート構造物の維持管理(新潟会場)	○	○	○	○
15	コンクリート構造物の維持管理(上越会場)				
16	自然災害時の危機管理		○		○

開催時期については、HPに掲載いたします。

クリエイティブ セミナーのご案内

県、市町村などの職員を対象として、
これからの社会資本整備に向けて
必要とされる幅広い知識や本質を的確に捉える
能力の向上を図るための研修「クリエイティブセミナー」を、
県土木部との共催により実施しています。
昨年度は4回の開催で多数ご参加頂きました。
今年度も魅力あるクリエイティブセミナーを
計画しております。



詳細が決まり次第HPに掲載いたします。多数のご参加をお待ちしております。
詳しくは当センターHPをご覧ください。▶ <http://www.niigata-ctc.or.jp/>

建設材料試験の豆知識



粗骨材の密度及び吸水率試験について JIS A 1110

1. 目的

粗骨材の密度及び吸水率試験では、表乾密度・絶乾密度・吸水率を求めることができます。コンクリートの配合（調合）設計を行う場合に表乾密度を用い、またコンクリート用骨材として使用の適否を判定する際には絶乾密度ならびに吸水率を用います。

2. 試験の手順



① 4.75mmふるいにとどまる試料を採取し、水洗い後に吸水させる。

24時間
吸水



② 吸水性の布で目に見える水膜をふき取り、表乾状態とする。



③ 表乾質量を計量する。



④ 水中質量を計量する。

乾燥



⑤ 絶乾質量を計量する。

3. 結果の利用

コンクリート用骨材として使用の適否を判定する際に、絶乾密度及び吸水率の結果が利用されます。

材料	絶乾密度 (g/cm ³)	吸水率 (%)	規格	備考
砂利	2.5以上 (2.4以上)	3.0以下 (4.0以下)	JIS A 5308 附属書A	・購入者の承認を得て、(2.4以上)とすることができる ・購入者の承認を得て、(4.0以下)とすることができる
碎石	2.5以上	3.0以下	JIS A 5005	—

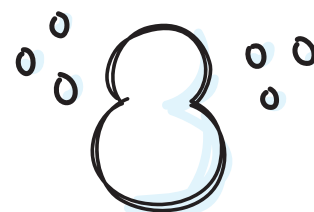
【密度と他の性状の相関性について】

密度が大きいほど骨材内部の空隙率が小さく、吸水率も少なくなる傾向があります。吸水率の少ない骨材は強硬で耐久性が高くなります。

密度 大 ⇒ 吸水率 小
密度 大 ⇒ 耐摩耗性 大
密度 大 ⇒ 耐冷害性 大



雪のことは・雪のころ



地震と雪の複合災害 中越地震と北海道胆振東部地震^{いぶり}

国立研究開発法人防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター 上石 勲

新潟県中越地震は2004年10月23日に発生しました。大きな被害のあった地域は、新潟県でも豪雪地帯として知られており、地震による影響が雪害を増大させることが心配されました。日本雪氷学会と日本雪工学会では、合同の調査チームを結成し、その影響を防ぐための提言を出しています。その中では、地震で被害を受けた建物の屋根雪荷重による倒壊や、未復旧の道路の除雪が困難になること、山間部では雪崩が発生しやすくなることなどが、懸念事項として挙げられました。この年の本格的な雪は12月の後半からで、旧山古志村の住民の車での避難が降雪前ぎりぎりだったことを覚えています。雪が遅かったのはよかったのですが、旧山古志村や川口町、小千谷市などが大雪となり、いろいろな問題が発生しました。

市街地では、一部で消雪パイプが地震によって被災して機能しなかったり、仮設住宅でも大量の除雪が必要となりました。



2005年2月 小千谷市内仮設住宅

2019年9月6日に発生した北海道胆振東部地震^{いぶり}の被災地も豪雪地帯であり、中越地震の経験を地元の自治体の皆様にもお伝えしました。

2019年2月23日には北海道胆振地方で最大震度6弱の地震が発生しました。翌日現地に入り、雪の災害について調査を行ってきました。

厚真町^{あつま}、安平町^{あびら}、むかわ町などでは、積雪深も多いたとこで40cm程度と雪がそれほど多くなく、積雪荷重が影響する住宅被害や落雪の影響は見られませんでした。9月の地震で浮き上がったマンホールなどが除雪の邪魔になっているところが見られました。



2019年2月 北海道安平町

山間部では、地震によって雪崩が発生したとの報道がありましたが、大規模な雪崩発生も見られませんでした。ただ、2011年3月12日の長野県北部地震で津南町などに見られた地震による積雪のクラック(雪割れ:傾斜地の積雪面にできた亀裂)の発生や、中越地震後の融雪期に見られた融雪水が積雪表面上を流れるような状況も確認され、今後も留意が必要かと思えます。



2019年2月 北海道厚真町 9月に土砂災害が発生した斜面

地震災害も頻発しておりますので、地震と大雪の複合災害については今後も調査研究を続けていかなくてはと大いに感じております。

特集

vol.9

新潟の地酒巡り

全国的にも評価が高い新潟の清酒。
そのおいしさの秘密を紹介します。

阿賀野市の酒蔵

越後桜酒造

もっと身近に、
良質のお酒を気軽に飲んでほしい

全国新酒鑑評会で連続金賞を受賞している蔵人たちが、美味しく飲める、気軽に飲める、毎日飲める酒を目指して、酒造りに取り組んでいます。

多くの方に美味しい日本酒を飲んでいただけるよう、精進してまいります。

執行役員社長 おさ 長 昌幸



1.「大吟醸越後桜」50%精白の大吟醸。手ごろな価格で本格大吟醸を味わえる。華やかな香りとすっきりしたのど越しが後をひく。2.「越後桜38大吟醸」酒米の王様「山田錦」を38%まで精白した、贅沢な大吟醸。上品な吟醸香とやわらかい口当たり。色々なシーンでお楽しみいただけます。3.「白鳥蔵バック」新潟県限定販売。しっかりした味わいと、辛口でキレのある定番酒は、毎日の晩酌に最適な美酒です。



越後桜酒造株式会社
〒959-2005
新潟県阿賀野市山口町1丁目7番地13号
TEL. 0250-62-2033
URL. <http://www.nihonsakura.co.jp/>

創業は明治23年、初代頭首の白井六蔵が水原町（現、阿賀野市）で酒造りを始めました。

水原は明治の初期に越後府が置かれ、一時、県政の中心にありました。五頭の山々や阿賀野川など自然豊かな土地で稲作が盛んに行われてきましたが、ここで地元の米を使つての清酒造りが始まりました。

また、この土地ならではの軟水は、淡麗で透明度の高い、ふくよかな味わいの酒を醸し出します。

平成21年には100年以上の歴史がある酒蔵を全面改装し、最新式の設備を導入。今まで培ったノウハウを継承し、その上で合理化、省力化を進めた酒蔵になっています。

こうして変化を遂げた酒蔵で、当社ならではの商品も育ってきています。「大吟醸越後桜」は50%まで精白した酒米を、低温で丁寧に仕込みました。今まで手が届き難かった大吟醸を身近に、手軽に飲んでいただきたいとの想いで発売しましたが、「ワイングラスで美味しい日本酒アワード」で連続金賞を受賞するなど、品質も認められています。

「越後桜38大吟醸」はひとクラス上の大吟醸として去年、新発売しました。当蔵のレギュラー商品としては一番精白歩合が高く、こだわりの逸品です。

「白鳥蔵」は蔵の全面改装を機に発売した新潟県内限定の商品です。辛口で15度のキリッとした呑み口は、料理を選ばずご家庭の定番酒として広がりつつあります。紙バックの容器で発売しましたが、紙バックは日本酒の大敵である紫外線を100%遮断するため、ビン容器よりも品質に良いのです。おまけに落としても割れないため、持ち運びに便利です。

試行錯誤を続けながらこれからも品質を追求し、飲んでいただいた方に「美味しい」と言っていただけの酒造りに取り組んでまいります。

編集後記

春の暖かい日差しが心地よい毎日となりました。

2019年度最初の新潟県建設技術センターだよりは、阿賀野市様を特集させていただいております。発行にあたり、ご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

さて、2019年度が始まりました。平成が終わり、新たな時代が始まる節目です。職員一同気持ちも新たに、安全・安心な地域づくりのため精進してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

編集委員 総務部 主任 池亀 佑美

